

厄災も稲妻も朝日も光《ヴォクスノク》そうか、美しいのか

忘却を許さず灰は《ヴォクスノク》子どものかたちをして甦る

《ヴォクスノク》空が切れた日ベッドでは稚児がせがみし童話になりけり

《ヴォクスノク》切り裂くための息だった（光で絶てぬ光のことは）

《ヴォクスノク》黒を切り裂く光は迷い吹き荒ぶ白と混じれば灰

ヴォクスノク 王の子依りて燦ぶ火を覗けばひかる曇りなき眼

《ヴォクスノク》こころとせかいの約束を守る助けの対価というだけ

ねえオズ様すいかのたねをとばせたらほめてください、あつ！《ヴォクスノク》

銀はるか「……さまー！」「なんだ」……雪ごときものが化かすか 去ね《ヴォクスノク》

Oz Arthur

《パルノクタン・ニクスジオ》傷、癒える傷 こんなにも生身の私たち

守られていると知る瞳が《パルノクタン・ニクスジオ》映すオーロラの青

ぱんけーき《はるのくたん・にくすじお》甘くはもうない苦くはまだない

つばさ、つばさ、《パルノクタン・ニクスジオ》はばたくための火を、てのひらに

白銀も闇も彩る光よ導け《パルノクタン・ニクスジオ》

暴風雪 落ちし子さげぶパルノクタン……！ 北の大地も驚いたらう

ほしの海揺く《パルノクタン・ニクスジオ》砂浜のしろさらさらのしろ

ゆら、ゆら、ゆら。

ゆら《パルノクタン・Nocturne》〈愛〉〈ひかる〉〈岩〉〈雪〉ニクスジオ《

灯すのは あの《パルノクタン・ニクスジオ》凍える城は ほんとはここだ

守るため《パルノクタン・ニクスジオ》護られていた日々を知るから

わたゆきを食む《パルノクタン・ニクスジオ》霽くるひととありし日のこと

《パルノクタン・ニクスジオ》さあ 行きましょう 瞳も空も 蒼く高潔に

忌まれしこのパルノクタン・ニクスジオ唱える度に想うは守り歌

あたたかな冬はたしかに《パルノクタン・ニクスジオ》この届かない手に

音もなく降り積もる雪《パルノクタン・ニクスジオ》愛 溶けたりしない

思い出の景色をなぞる。パルノクタン・ニクスジオと雪、星の唄と橋。

雪道に行く《パルノクタン・ニクスジオ》厚く静かな外套は揺れ

夜の窓しずかに叩く（パルノクタン・ニクスジオ）まだ閉まっけていても

英田柚有子
青野
あんの屋
雨季
おつき
カヌレ
くじ
こんろ
椎葉
瀬良
谷
塚紗りむ
ぴよex
ミクニハレノ
満
雪解雨
よも
穂崎円

星座ならおまえの右手を剣として《マッツァー・スデーパー》飾る 夢

朝露を蹴散らす《マッツァー・スデーパー》全部やるから望んでほしい

錠か鎖か《マッツァー・スデーパー》魔法使いであり続けること

満たされることなどへマッツァー・スデーパー》胸のこずえを揺らす雨音

身命を賭して《マッツァー・スデーパー》命じろ 違えられても本望

守る者たちへのマッツァー・スデーパー 泥のおいを勲章にして

おひきさう案山子《マッツァー・スデーパー》口笛ならう類は夕焼け

健やかな心《マッツァースデーパー》ピザプロテインペヤングポテト

痛みさえ 消せぬへマッツァー・スデーパー》酸いのに甘い 初めてのゆめ

Shino Heathcliff

小さくて容易く揺れる炎でも《レプセヴァイヴルプ・スノス》消えない

銀の雨 望みは《レプセヴァイヴルプ・スノス》怖れと似て目が眩む

嫌いでない 《夕暮れと雨・の音》のことでも赤面する 嫌じゃないよ

分け合えばいつそう甘くへレプセヴァイヴルプ・スノス》と震動弁は歌う

夕立にお願い花の香連れてきてどうか《レプセヴァイヴルプ・スノス》

レプセヴァイヴルプ・スノスと雨音と自鳴琴の声は お守り

夜嵐のクレッシェンドに乗せ《レプセヴァイヴルプ・スノス》テノール・ソロ

きり、きり、きり。大丈夫だよ。繕うよ。《レプセヴァイヴルプ・スノス》きり、きり。

呼ばせろよ へレプセヴァイヴルプ・スノス》駆け抜く あの稲妻が 俺の友だと

《レプセヴァイヴルプ・スノス》日曜に降る雨だって美しい雨

ゆふぐれに凧といふ名を与へたり《レプセヴァイヴルプ・スノス》 凧、来よ

紅玉は 眩く強く 信じたい 《レプセヴァイヴルプ・スノス》友情を

螺子巻きにレプセヴァイヴルプ・スノスのせ機械仕掛けの世界が輪る

おそれない明日であるようこの窓を《レプセヴァイヴルプ・スノス》ひらいて

窓際の《レプセヴァイヴルプ・スノス》ほら、冷えないうちに身体を拭けよ

捨てられないだけだったレプセヴァイヴルプ・スノスもここで友と在ろうか

突き立てる《レプセヴァイヴルプ・スノス》手に余る歯車握るなら牙

こぼさぬよう捧げて持つよしらがねのレプセヴァイヴルプ・スノスの共振

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

《クアーレ・モリト》おまえにあげた眼は僕のたましいの在処も見えるだろ

クリームも灰も茨もお祈りも《クアーレ・モリト》どこから来るの

《クーレ・メミニ》互いが嫌いなオルターエゴ《クアーレ・モリト》で鏡が割れた

ぜんぶひらいてみればわかるよ《クーレ・メミニ》いのちのことも孤独のことも

はらわたためめだまも全部甘あく溶かして《クアーレ・モリト》

《クーレ・メミニ》どろどろ固めてチョコレートここは真っ暗なんにも見えない

クーレメミニ アーカイヴへのレタッチは森に置きざり』どうして死ぬの?」

欲しくないその目で見るなうるさいな名前を呼ぶなよ《クアーレ・モリト》

目が回るほどに怖がってるといい名前を呼んでよ《クーレ・メミニ》

びちよびちよと《クアーレ》(だれか)・(みつけて)モリト《目からあめがふってきた 血

《クーレ・メミニメミニメミニオオカミノツメ誰も見つけるな》心臓はぼく

教えてよ 《クーレ・メミニ》なぜ『怖がるの? きみの後ろに きみはいるのに

Owen / Cain

ひかってる まぶたの裏は赤と黒だけでいいのに、《クアーレ・モリト》

夏の花みたいにつか枯れちやふの おまえのことだよ《クアーレ・モリト》

《クーレ・メミニ》籠をなくした金糸雀の目をして困つて戸惑つて さう

夢で見た 眩い蜜の 朝の色《クアーレ・モリト》異端と呼ばれとも

もりのなかかくれたぼくをみつけてね《クアーレ・モリト》いつかきしさま

叶いっこない御伽噺《クーレ・メミニ》なんだほんとにつまんない

ささやきは枯れない葉擦れ 僕だけが《クアーレ・モリト》影をのばして

わかちあうことはできずにあざやかな《クーレ・メミニ》眼裏のゆめ

知りたいよ《クアーレ・モリト》忌々しい色がなんだか甘い理由を

「苦、あれ」と クスクスと暗闇の音 朽ちた護りと「クアーレ・モリト」

(クーレメミニ) 昏れの寒紅 くたびれた絵本に 狂った森の夢見に

ひく息にふれる額を撫でてやる 目蓋を閉じる 《クアーレ・モリト》

あたらしい景色をあげる《クーレ・メミニ》眼を(傷口を)開いてみせて

錠前を下ろしてもなお錠する(クアーレ・モリト)声がうるさい

手を触れて形があらわれるときの《グラディアス・プロセーラ》さやけさ

《グラディアス・プロセーラ》触れられる手がみな温かく生きている手だ

グラディアス・プロセーラ、ラ、ラ、ラ、友と踊る夜会のあとの鍛錬の熱

覚めるたび「1」から始まる世界でも《グラディアス・プロセーラ》見据える

《グラディアス・プロセーラ》で忠誠を 「シャル・ウィ・ダンス?」で信愛を

せせらぎの中から跳ねるきらきらのグラディアス・プロセーラ握って

掘り出して触れて口づけ《グラディアス・プロセーラ》もう閉ざすことはない

《グラディアス・「風よ踊ろう!」プロセーラ》硝子の靴は揃えてあります

届くなら 翳せ《グラディアス・プロセーラ》「……魔法使いが」 俺は守る

祝福を《グラディアス・プロセーラ》今伸ばす右手を掴んでほしい

お嬢さん、お手を《グラディアス・プロセーラ》感嘆符ふたつ飛ばして躍る

《グラディアス・プロセーラ》この片目でも 騎士の正義は ついぞ潰えぬ

グラディアス・プロセーラとこの剣で薙ぎ伏せ拓く我が君の路

ふりかえらない《グラディアス・プロセーラ》痛みは風の行方を告げる

《グラディアス・プロセーラ》剣交わし合うように唱える言葉は君へ

グラディアス・プロセーラの音もこの剣も背負う命分等しく重い

鞘走りの音《グラディアス・プロセーラ》不可視の剣は陽に踊る

手を叩く、重なる、触れる、グラディアス・プロセーラ 握る、俺だけの剣

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよ ex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》生きていることがうれしいことがうれしい

《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》胸元に生き直す花のブートニエールを

仮縫いの翼に命吹き込んで《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

結び目をほぐせば胸にいっぱいいのへスイスピシーボ・ヴォイティンゴーク

夜なべしてきみの笑顔を夢に見る《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

人生は、スイスピシーボ・フラジリス・エクスピアリ・ヴォイティンゴークさ！

この空を裂いて継いだの枕にしよう《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

なみだには《スイスピシーヴォ・（内緒だよ）・ヴォイティンゴーク》を縫いつけておくれ

編み上げて　へスイスピシーボ・ヴォイティンゴーク！　明日の誰かを　飾るようにと

Chloe Rustica

《アモレスト・ヴィエッセ》僕の花嫁を隠して世界は遍く綺麗

《アモレスト・ヴィエッセ》けれど輪唱のように小鳥のあとから影は

《アモレスト・ヴィエッセ》旅路に《アモレスト・ヴィエッセ》　ただ積もっていく

へアモレスト・ヴィエッセ　目には見えなくてもうつくしい歌でしょう　小鳥も

木漏れ日の楽譜を讀え《アモレスト・ヴィエッセ》お礼にお茶会を

アモレスト・ヴィエッセ　ヴィヴァーチェ　ヴィヴァチッシモ　コン・アモーレを弾く指先

幕間に幸福溶かした綿あめを《アモレスト・ヴィエッセ》残響を

《・ヴィエッセ》の悔を誰にも悟らせず《アモレスト》美き音のみ　天晴れ

へアモレスト・ヴィエッセさあ、ほら手を取って？　世界もきみも　とても綺麗だ

暗がりも知る人じゃなきや《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》ひかりは編めない

かりそめの死よ　うれしいなうれしいな《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

希望の音　扉を叩く　あんたの声《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

あんたがくれた素敵を全部縫い付けて《スイスピシーボ・ボイテンゴーク》！

消えないで　夜に釦を縫いつけて《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

あの日から《スイスピシーボ》触れたもの《ヴォイティンゴーク》忘れたくない

泣き顔も笑顔も素敵な柄になる！　《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

いま結ぶもらえなかったリボンたち《スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク》

新しい一針、一裁ち、目を覚ませ　スイスピシーボ・ヴォイティンゴーク

甘やかでうつくしいもの《アモレスト・ヴィエッセ》きみは僕だけのもの

すきなだけ空に浮かべよう《アモレスト・ヴィエッセ》愛は小鳥のかたち

《アモレスト・ヴィエッセ》青い鳥が飛ぶ　優雅なワルツ　いつまでもきみと

《アモレスト・ヴィエッセ》糸を手繰り寄せ紡いで奏でてあなたに謳う

さえずりはせかいに満ちて《アモレスト・ヴィエッセ》空いたままの鳥籠

《アモレスト・ヴィエッセ》僕が旅した日　あなたに捧ぐ忘却の愛

鳥籠の隙間に囁く（アモレスト・ヴィエッセ）（空は綺麗で怖い）

醒めるまで夢。《アモレスト・ヴィエッセ》拍は消え波が聴こえますから

アモレスト・ヴィエッセひらけば胸中に張りつめていた弦の金色

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

俺だけが俺の王、そう教わった 最強になりますよ 《アルシム》

行く先のない舟でした花という渾沌が咲くまでを 《アルシム》

《アルシム》それは予期せぬ道標散れども茂る花園へ続く

もう二度と《アルシム》開かぬドアもあり《アルシム》春に無数の花を

花よ笑え 蕾と種が踊るように《アルシム》繋げ縁まで

約束の髑髏ひきいて青空へ 赤 知らしめるためのアルシム

泳ぐ權《アルシム》花だ《アルシム》子《アルシム》ぬくい手まなこの裏側

「わからないな。誰かのための《アルシム》などありませんよ」と花火はゆれた

縁など 〈……アルシム〉とんだ置き土産 どうして笑う あなたみたいだ

Mithra Rutile

《オルトニク・セトマオージエ》を。祝福を。そのままを愛せたらいいです

《オルトニク・セトマオージエ》風とともに翔ければ春の楽団に会う

《オルトニク・セトマオージエ》で絵筆にて混ざる夕焼け、夕闇と、シチュー

夜を知るためなら夜に《オルトニク・セトマオージエ》次はあなたに

《オルトニク・セトマオージエ》に編み込んだ言葉と心で未来を紡ぐ

つらいときこそ踊りましょオルトニク・セトマオージエ 荒地を蹴って

雲叩く第一陣《オルトニク・セトマオージエ》子らの歓声

《オルトニク・（かあさま）セトマオージエ（どうさま）》ルチルは碧をつくれます、いつでも

万華鏡 見て！《オルトニク・セトマオージエ》どれもきらきら 守りたいもの

はじまり、も終わり、もいつか、も知らなくて確かなこととしての《アルシム》

全霊をもて斃すべし霹靂のしじまとなるまでアルシムすべし

《アルシム》と無情な声を拾うのは 今も昔も 違う亜麻色

懐かしい声であなたが呼んだから《アルシム》見えるように派手にやります

ひらいてもひらいても春《アルシム》つまさきだけが湖水にのこる

《アルシム》はなを持たぬ子に花束を献ぐいつかの記憶《アルシム》

アルデバランは花の名を懐かしむ ある春の陽が身に染む 《アルシム》

《アルシム》と音律のない歌をうたえ 太陽を喰らう獣の歌を

（アルシム）扉を開けたその先の光を信じればいいと言われた

分かち合うために言葉はあるのです。ほら、《オルトニク・セトマオージエ》も

「オルトニク・セトマオージエ」と唱へあふ帰り道はみんな魔法使ひ

亜麻の髪 《オルトニク・セトマオージエ》 慈愛の色と 母は詠った

オルトニク・セトマオージエをはんぶんこ愛みちるこの世界へようこそ

手をつなぐ夜《オルトニク・セトマオージエ》花園に咲く花のさみしさ

物語る未来を夢見て《オルトニク・セトマオージエ》めでたしめでたし

《オルトニク・素敵・大好き・ありがとう・セトマオージエ》 ほら、言葉も魔法。

《オルトニク・セトマオージエ》空を掃く箒は遙か、のびやかであること

いつか遠い凍湖に響く（オルトニク・セトマオージエ）歌をうたって

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

柔らかいものに触れたら《サンレティア・エディフ》墮落しようか、うれしい

《サンレティア・エディフ》炎よ揺れないでたったひとつの心臓でいて

無意識に伏せた睫毛の《サンレティア・エディフ》は祈り 微笑みもまた

《サンレティア》祈りではなくふれられる湯気の温度のさいわいへエディフ

陽を浴びて僕を友と呼ぶ人がいる《サンレティア・エディフ》幼き灯 揺れる

朝ねぼう文字のれんしゅうサンレティア・エディフ夜中にわけ合うおかし

太陽とやらに仕事を奪われて《サンレティア・エディフ》油の余る

《サンレティア・エディフ》おたまじゃくしたちが文字を描く、ド、レ、ミ、ファ、リ、け、ソラシド

赦しましょう《サンレティア・エディフ》ひとつ教えて あなたのパンは あたたかいですか？

澄み切った瞳で見るほど《サンレティア・エディフ》まぶしく鮮やかな日々

《サンレティア・エディフ》光のあるまではふかふかのパンは無かつたのです

この世界 純粹な穢れ 満ちている《サンレティア・エディフ》風を身と感じ

サンレティア・エディフと祈りとランタンは居場所をくれる灯火だから

《サンレティア・エディフ》まぶたをとじるときふれているのはかみさまだから

祈りとはひどく冷たい鋭さでやわく手を組む《サンレティア・エディフ》

《サンレティア・エディフ》ランタン燦々と照らすこの道は正しいですか？

照らすのは天からの光ばかりではないようです《サンレティア・エディフ》

サンレティア・エディフ 光はまっすぐに僕らも遠くまで行けますよう

Riquet Mitile

呪文って祈りに似てる《オルトニク・セアルシスピルチエ》少し遠くて

本当のことが知りたい《オルトニク・セアルシスピルチエ》疾風よ、来て

《オルトニク・セアルシスピルチエ》往路行く南の温もり月の輝き

草を踏む匂いもすべて抱いてゆきます《オルトニク・セアルシスピルチエ》

手の中の内緒の月に《オルトニク・セアルシスピルチエ》強さをください

若草は朝露こぼしオルトニク・セアルシスピルチエ 自由を知る

石の実と葉と《オルトニク・セアルシスピルチエ》すりあわせ毒も薬も役なせば玉

こほん。すう、《「オルト」「ニク」「・」「セア」「ルシスピ」「ルチエ》ほら！
くすりが六個できましたよ！

掌か 拳か ボクは……！《オルトニク・セアルシスピルチエ》強くなりたい

《オルトニク・セアルシスピルチエ》どうしても大人や月はいじわるですか

われ一人ぶんの重さを《オルトニク・セアルシスピルチエ》薬研にあづく

《オルトニク・セアルシスピルチエ》風を受け 理想を語ろう 月の空の下

オルトニク・セアルシスピルチエ大地より息吹出た芽が薬となる

《オルトニク・セアルシスピルチエ》 擦り傷のいたみのためにはもう泣けなくて

《オルトニク》指先すり抜け吹く風が母のぬくもり《セアルシスピルチエ》

傷口にそっとおまじない（オルトニク・セアルシスピルチエ） 強くなります

舌を噛む《オルトニク・セアルシスピルチエ》あなたは舌、歯を持つということ

かあさまと口にするとき（オルトニク・セアルシスピルチエ）ちいさな光

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

びよ e x

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

《インヴィーベル》夢のわたしの手を取って。（取れないことを恥じなくていい）

戯れに指を伸ばせば《インヴィーベル》グラスの中に月は揺らいで

いかげんになさって《インヴィーベル》ワインが色深しきは溢れる間際

絵のように愛でてよければ《インヴィーベル》傷があるから光るのですよ

おやすみなさい《インヴィーベル》お次は夢かカウンター越して会いましょう

樽のふち指でなぞりしはじめての別れはインヴィーベル 包まれて

暗がりによどうふつつ焦がれ待つ《インヴィーベル》に選り抜かるるを

或る処に愚かな主と《インヴィーベル》猫一匹 それだけのお話。

召し上がれ 洒落も海音も《インヴィーベル》もう出会えない 今宵の色を

Shylock Murr

月光を浴びた欠片がそここできらきらしてる。エアニュー・ランブル！

比喩が火を滅ぼしたがる花火ってそういうものさ《エアニュー・ランブル》！

探求の《エアニュー・ランブル》それだけで猫は殺され神も死にゆく

月の裏も心の裏もカットして《エアニュー・ランブル》光らせようよ

四本の手足じゃ足りない花束あげるドキドキするでしょ？《エアニュー・ランブル》

今夜だけきみへのエアニュー・ランブルは突き放す詩になる 受け取って

きこえたさわたしに来し方質すゆびご覧に入れよう《エアニュー・ランブル》

！次々の欠片がうまれてしんでゆくつかまえなくちゃ《エアニュー・ラ……

絵の具箱 《エアニュー・ランブル》ぐちゃぐちゃだ！ 名前をつけて！きみの言葉で！

悲喜劇に酔い痴れてこそその人生へ《インヴィーベル》とお守りをやる

うすぎぬを溢るるやうに愛のやうにインヴィーベルをあなたの頬に

《インヴィーベル》月は見ていた 妖艶に 燦る夕闇 私の悔やみ

醸す色インヴィーベルに愛をのせ「さあ極上の一杯をどうぞ」

《インヴィーベル》枯れない花を花と呼ぶたびにこころの場所は灼かれて

甘やかな《インヴィーベル》の吐息すらリップサービス煙にまかれて

「おや？なんと可愛らしい方。今晚のインヴィーベルはサービスですよ」

《インヴィーベル》琥珀の酔いに溶かされて滲む氷のあわいは愛し

希釈して差し上げますね《インヴィーベル》 最後まで飲み干せるよう

跳んでみて！《エアニュー》ほらね、こうすれば《ランブル》世界はめちゃくちゃでしょう？

エアガンを隠したアベニュー 乱世とは自由？トラブル？ 《エアニュー・ランブル》

九つじゃ足りない！ドアを見たら開けずになんていられない！《エアニュー・ランブル》！

プラン・ニュー・エアニュー・ランブル月が笑う碎けて笑うあとは花びら！

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

あやまたず撃ち抜く《アドノポテンスム》撃ち抜いてやる優しさはある

引鉄を引くなら《アドノポテンスム》目を逸らすなよ 朝焼けに月

打ち落とせ硝子の天井も稲妻も《アドノポテンスム》この手で全て

剥き出して疾走るところを弾と呼ぶ《アドノポテンスム》うつせみと星

罪人に《アドノ……》言いさし白昼夢うつろい望むは《 》

命かけ盗る宝こそ生き様と掲げる言葉 アドノポテンスム

重くした革袋の引く轍さえ《アドノポテンスム》腹に詰め込み

赤く塗れ！てめえでぶん獲った指輪を嵌めろ！野郎共《アドノポテンスム》

失えば 奪うさ《アドノ・ポテンスム》 悔やむくらいじゃ 呵々とあれよと

いつだって最高高度を見せてやる《アドノポテンスム》望むものなら

正面より《アドノポテンスム》撃ち貫かし銃声をもて餓とせよ
おもて

征服が 俺の矜持だと 雨の音《アドノポテンスム》シトリン見つめ

銃口に総てを詰めて打ち放つ《アドノポテンスム》俺のポテンシャル

花曇り《アドノポテンスム》散るものもなく晒されているだけの傷

耳澄ませ呼吸を忘れろ生き急ぐための弾丸《アドノポテンスム》

勝ち負けも命も指も引き金に 賭け《懸け》懸け たら叫べ！《アドノポテンスム》

《アドノポテンスム》継ぎ接ぎの火薬よ爆ぜろ 狙う星総て撃ち落とすため

撃鉄を静かに起こし引き金をーアドノポテンスム、奪うだけだろ

Bradley Nero

望むのは《アドノデイス・オムニス》子らに食べさせること眠らせること

傘だった 雨だったのに《アドノデイス・オムニス》開かれずにいる傘

あいつに もうついてはいかないし長雨は続く《∴デイス・オムニス》

《アドノデイス・オムニス》殻を割るときに差し入るひかり（何を）ほろぼす

聞こえないふりもできるよアドノデイス・オムニス外は雨なんだから

行きずりのいのち傘かげさし入れて足早に《アドノデイス・オムニス》

《アドノデイス・オムニス》透明なあなたが花雪のように泣く きこえるよ

懲りもせず 繰り返す《アドノ》一皿に 託す祈りか《デイス・オムニス》

《アドノデイス・（生きていたもの）・オムニス》をなるたけ優しく奪う生活

アドノデイス・オムニス《子らにさいはひを教へてやれば麦のふさふさ

《アドノデイス・オムニス》諦念 傍に置き ワインレッドの夕焼け空と

《アドノデイス・オムニス》唱えずできる魔法その美味しいで使える魔法

とじられた扉に鍵を《アドノデイス・オムニス》街がわすれるあかり

伸ばした手結んでほどく《アドノデイス・オムニス》どうか諦めたくて

アドノデイス・オムニスをまた雨音に隠して人に馴染んで生きる

《アドノデイス・オムニス》俺は息継ぎをしてふくらんだ生地をのばす

アドノデイス・オムニス雨が降っているいつ止むべきかわからないまま

英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円



どこに触れたら痛いかは知っている《サティルクナート・ムルクリー、ド》
《サティルクナート・ムルクリード》と唱えても声を持たない夢の汀に
自製の錆　されど鏡は照らすのだ《サティルクナート・ムルクリード》と
はなびらのつめたさは触れればわかる《サティルクナート・ムルクリード》
さみの手が錆で汚れぬよう《サティルクナート・ムルクリード》は呪い
たましいはサティルクナード・ムルクリード灰になれずに水せがむ　夜
雪解けに指凍みて招く《サティルクナート・ムルクリード》本日も三毛
丘の（こねこ）《サティルクナート・（こねこ）ムルクリード》鐘は鳴る、ねむる（こねこ）
なれぬ果て　《サティルクナート・ムルクリード》なあ鏡よ鏡　呪えと晒え

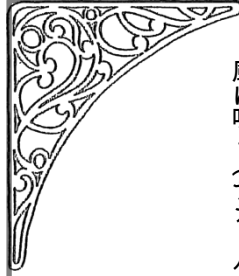
Faust Lennox

目を凝らす《サティルクナート・ムルクリード》呪いと祈りは似ているゆえに
もう（サティルクナート）願ふ事もなき流星が（ムルクリード）綺麗
葦咲く《サティルクナート・ムルクリード》炎の色と　幽寂の谷
鳥屠る白きその手を差し伸ばしサティルクナートムルクリードして
《サティルクナート・ムルクリード》傷跡に芽吹くみどりはかすかに揺れる
野宮の火《サティルクナート》戻らぬ日《ムルクリード》手を合わせた碑
サティルクナート、で夢から目が覚める。途切れたムルクリードは　祝呪　い？
跡地にて《サティルクナート・ムルクリード》触れては硝子片にて覆う
風は吹く（サティルクナート・ムルクリード）誰も責められずに、くりかえし



《フォーセタオ・メユーヴァ》今も探し続けている居場所、あなたの　俺の
《フォーセタオ・メユーヴァ》次の風を待つころの淵に糸を垂らして
《フォーセタオ・メユーヴァ》一歩　一歩　百年が四つでやつとはじまりに着いた
《フォーセタオ・メユーヴァ》星は遠いほどしるべになると知っていて、でも
《フォーセタオ・メユーヴァ》貴方のための鉄　錆朽ちるまでどうかお側に
激動が過ぎた山脈　ゆれる花　深呼吸　フォーセタオ・メユーヴァ
あて布の色もとりどり《フォーセタオ・メユーヴァ》靴は紐張り詰めるほど
《フォーセタオ・（メユーヴァ）（メユーヴァ）（メユーヴァ）》よし。
絆創膏は貼っておきました。
できないさ　時、足跡も《フォーセタオ・メユーヴァ》変えぬ　降り積もるまま

あたたかいものだと思う《フォーセタオ・メユーヴァ》生命、未来、たましい
《フォーセタオ・メユーヴァ》山を見あげればこころの山に犬駆けわたる
《フォーセタオ・メユーヴァ》この身　朽ちることも　忠誠の炎は葦の傍に
月の下踊るあなたの影になり《フォーセタオ・メユーヴァ》それは楔にも似て
傘をもたないみちゆきに《フォーセタオ・メユーヴァ》ひととき虹になる雨
《フォーセタオ》炎が照らす横顔をただもう一度願う《メユーヴァ》
《フォーセタオ・メユーヴァ》　今も待っている夢の続きへ、羊が一匹、
《フォーセタオ・メユーヴァ》たとえばコーヒーに角砂糖ひとつ落として飲む日
フォーセタオー火を灯すとは火を囲む暗闇を見ることだーメユーヴァ



英田柚有子

青野

あんの屋

雨季

おつき

カヌレ

くじ

こんろ

椎葉

瀬良

谷

塚紗りむ

ぴよex

ミクニハレノ

満

雪解雨

よも

穂崎円

《ノスコムニア》無かったことにして生きる　雪がすべてを覆ってくれる

不可分なはずはないのに《ノスコムニア》不可分を望んだ　殺しても

《ノスコムニア》我らのおさない永遠に雪が降り積む《ノスコムニア》

大人になってしまった

《ノスコムニア》に怯んで街を見渡す　雪だ

《ノスコムニア》ならんで踏んだ雪の音やともに眺めた海や（遠いな）

《ノスコムニア》少しの興味で無二はなき愛しておるよと《ノスコムニア》

ノスコムニア　健やかであれ夢寐の間も二千先まであいたずさえる

《ノスコムニア》祝いのやまびこ木々を割り日向に揺れるマーシアの新芽

《ノスコムニア》祝いのいかずち木々を割り伏す古枝に玻璃の饒

青鬼泣「赤を抱きてあやさなむ、のち我も赤と果てなむ」ゼーの、

赤鬼泣「青に焦がれて青を刺す、のち我も青に染まらむ」ゼーの、

哀れじやな　幾度重ねど　《……ノスコムニア》　重ならぬ音　まだ鮮やかに

不思議じやな　まだ届くなら　《ノスコムニア！》　捨てるには愛い　幾度重ねど

Snow / White Figaro

《ポッシデオ》そのたびに付く擦り傷で滲む世界が綺麗　いまさら

吹いたってそれっきりだよ《ポッシデオ》風は水面を撫でるばかりで

求めてもなお見つからず《ポッシデオ》探してないのはさざ波の下

はなびらを撒く　まっすぐに落ちるほど重くなれないだけ《ポッシデオ》

《ポッシデオ》さよなら三角また三角　降り積もるせんは白も隠した

ポッシデオ　尽きぬことばの潮騒を出会いと名づけ追うことなんて、

《ポッシデオ》なつかしさに似た味探し齒を立てぬよう転がしている

死出を《夢む（どうか、輪廻してください）心臓にともしびを照らす、《ぼっ

望むのかい？それは容易い。《ポッシデオ》……そう、それほどに、綺麗なんだね

《ポッシデオ》貼ったのはきみ？　いや　そうか　四方に進入禁止のテープ

《ポッシデオ》終の棲家を支度せり出逢ひはひとのお気に召すまま

《ポッシデオ》空に還そう　その命　甲斐など無いさ　叡智在れども

蜉蝣を見て物思ふ《ポッシデオ》あゝまるで人の子のやうだ

凍らない波にかたちは溶けてゆく（呼ばれたかった）嘘　《ポッシデオ》

大丈夫、怖くはないよ《ポッシデオ》たかが千年生きただけだよ

ぽかぽかと罪さえとかす幸せに出逢い《ポッシデオ》　俺だけ寒い

乾いても生きられる腕　でも水を掬っていたくて《ポッシデオ》、また、

ポッシデオ（雪もいのちも溶けること）（水面に落ちて消えた足音）

《ノスコムニア》（我らの）（我の）真二つの輪郭をなぞる愛の言霊

《ノスコムニア》その緒とは我　道骸にも笑い、結い、いつも愛しいことよ
そのおとはわれ　いがいにもわらいゆいいつもかなしいことよ
その音は割れ　意外にも嘆い（唯一も寂しいことよ）

死が”我”を分かť瞬間《ノスコムニア》ぬかせ、”我ら”は元よりふたり

《ノスコムニア》とけないゆきはえいえんの証のふりをしてまた積もる
かさねればわずかに透けるえいえんをわすれた声で《ノスコムニア》

幻影をつなぎとめて《ノスコムニア》それは願いじやこれは呪いじや

森の奥　独りの世には　雪の白《ノスコムニア》と　縋る無二の身
《ノスコムニア》世界を埋める　白い雪　片割れの涙と　凍てつく唯一

《ノスコムニア》吹雪を纏ひかたわれと《ノスコムニア》舞ふ皓きかはたれ

「重なる」と「重ねる」のあいだ《ノスコムニア》この機微わかるひとだけ止まれ

我らとふ主語抱きつつ雪道をゆけばノスコムニアと響けり